
4月馬鹿ジェントルメン

名無しボーガー命知狼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

4月馬鹿ジェントルメン

【Nコード】

N1244S

【作者名】

名無しボーガー命知狼

【あらすじ】

時は19世紀。エイプリルフルに大掛かりな嘘をつく事に生きがいを感じる若きイギリス紳士ウッドソープ・マーシャル。彼は世界各国の人々が集う日本へ壮大な嘘をつこうと企むが。

（前書き）

先日、エイプリルフルネタの小説を書くと思わず言ってしまったので、書いてみました。後悔はしていません（汗）

「ウツディ！貴様あれはどういう事だ！！」

漆黒のタキシード。いわば花婿の衣装を纏う若き英国紳士チャールズ・ポロデルは恥を掻いた。その原因は目の前にいる同年代の若者ウツドソープ・マーシャルの原因であった。

「まあ落ちつけよチャールズ。今日は何月何日かわかる？」

「今日は4月……ああ……」

ウツディことウツドソープに指摘されて気付く。4月1日という悪戯に満ちた日の存在を出。

「そういう訳だチャールズ。今年も引つ掛かった訳だ！！」

「貴様、エイプリルフルだからといってフェアリツテ家のマドモアゼルが俺に気があるとか嘘つきやがって！ 大変だったんだからな！！」

「年に一度のエイプリルフルだ。思い切り相手を騙してこそ価値があるものよ」

「だからといって、一昨年は軍部を全軍イギリスの街道を走りまわらせて、その去年は女王陛下のスクヤンダルとかてっちあげて……この間逮捕されてもお前は懲りないのか！」

「懲りないっ！！」

「……」

そのような嘘についてもウツディは懲りない。キリツと言い放つどや顔には4月1日という免責事項を自覚しているからである。

「4月1日はエイプリルフル。“はい、この日に嘘についても僕はただの嘘つきです”にはならないということだ！！」

「しかしなあ……世の中にはやっていい事と悪い事があってなあ……」

「それならいいぜ。俺、ジョークのセンスが分らないイギリスにいるの嫌だぜ」

ふとシリアスめいた表情に切り替わるウッディ。彼は何を思ったのか、世界地図を取り出して、右手に持つステイックはアジア付近の小さな列島を指した。

「最近、日本とかいう国へ俺達イギリス人や他の国の人々が往来する事が多いんだぜ」

「聞いた事がある。確かアメリカ、フランス、ドイツ、ロシアとか世界各国の有名人が日本の為にやってきているってな」

19世紀後半。明治初頭の日本はお雇い外国人と呼ばれる世界各国の各エキスパートが、日本近代化の為に政府から雇われていたのである。鎖国が解かれた日本は世界各国の人々が集う国と化していた時代である。

「そうそう。その日本には世界の人たちがいる訳。俺は世界中の人々にとんでもない嘘をつく事が出来る訳だ」

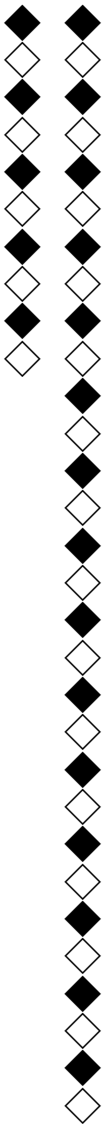
「……お前はそれ以外やる事がないのか」

「うんっ！」

「いや、そんな自信満々で返事するなよ」

「金ならちゃんとあるからな。来年のエイプリルフル目指して、それまでに日本の勉強をするぜ」

「……こうやって聞くとカッコいいけど、エイプリルフルのせいで台無しだ……」



時は1872年4月1日。日本の文化、言語、社会、出来事などを死ぬ気でウッディは学んだ。各国の人々を騙しても責任を逃れる事

が許される年に一度のチャンスが無駄にしない。多勢を騙す事に訳のわからないような快楽を感じる男ゆえに。そのような訳のわからない事に全てを投げ打った。

今、チャールズを巻き込み日本列島へ足を踏み入れ、口から、懐からの力が列島に住む者たちを狼狽させていた。

「お前、いったいどんな嘘をついた……」

「この国では天皇という位の人がトップ。明治天皇にヴィクトリア女王の娘さんが嫁ぐというとてもない嘘をね」

「おい……それはついたらまずい嘘だろ。この国の人達がどれだけ狼狽するか分からないじゃないか」

「嘘だからいいんだよ。今日は4月1日だぜ？分かる？」

悪友のやらかした大嘘の影響で、周囲の人々はどよめき、人力車に乗る男は号外を街路にまき散らしながら風のように通り過ぎる。そのついでに混乱から收拾のめどがつかない街頭には火事場泥棒の姿もあった。

「警部補！あいつです！！あの男がそのような事を……」

「何、分かった……おい貴様！！」

「ほら見ろ。大変なことになっちまったじゃねえか……」

「大丈夫だ！」

混乱を作った一人の男に年貢の収め時が来た。建築物の間に身をひそめた彼を日本側の警察が目につけたからだ。チャールズは逃げる。だが、ウッディにはエイプリルフルと言う確固たる自信があるうようで、隠す事を一つもしないまま堂々と姿を見せた。

「貴様！ 天皇陛下はそのような事全く身に覚えのない事と仰せられていたぞ！！」

「そりゃあそうですよ」

「な、なななんと！？ 貴様は天皇陛下へ嘘について誇りを傷つけさせる真似をしたと言うのか！？」

「それは大袈裟ですよ。今日は何の日か分からないんですか？」

「知らんわ！それよりもとっちめてやる！！」

「ええ……？」

警部補に率いられる何人かの警官。彼らがウッディの身柄を拘束した。さすがに度が過ぎているのではないか。自分のついた嘘がどれほど物騒なものかは知らないが、周囲の反応から流石に危機を本能が感じようとしていた。

「あのですね。今日はエイプリルフルという日。1年に1度嘘をついても全然大丈夫な日なんですよ」

「そのような日はわが国にはない！」

「ええ……一応言っておきますが、4月1日はそのような日なんですよ、本当ですって」

「今日は2月24日だ！」

「……はい？」

4月1日なら何を言っても許されると考えて行きて、行動に移したウッディの自信はこの時に碎かれた。男の様子では彼が自分を欺こうとするような姿勢は全く感じられない。

とにかく、自分の国では4月1日だったが、この国においては2月24日なのだ。

「君、余所から来たと思うけれどね。君の国では4月1日だが、今日は2月24日だ」

取り押さえる人々の後ろ。おそらく外人であろう。中老の男性が眼鏡を軽く手に添えながら告げる。ウッディの自信を崩壊させる内容につながるものである。

「あ、あんたもそういうのですか！？」

「ええ。この国と私や君たちの国では暦が違うようですね……君はエイプリルフルという日だと思っても、この国では通じないのだよ」

「……じゃあ、僕はただの嘘つきと言う事で……」

「イエス」

「……」

中老の男性は静かに去り、ウツディは全てを見失ったかのような虚ろな目で男達に連行されるのみであった。チャールズは悪友の末路をただ見届ける事しか出来なかったようである。

この当時イギリスは地球が太陽の周りを回る周期を元にした太陽暦であった事に対し、日本は月の周りを回る周期を元にした太陰暦を使用していた。

この違いに気が付かなかったウツディの敗北でもあるが、日本にとってエイプリルフールで通じる冗談が認められるには大正時代まで待たなくてはならなかった。

こうしてウッドソープ・マーシャル。彼はエイプリルフールだけあって4月に馬鹿を晒す事となった。最も日本は未だ2月であることからただの馬鹿にしかねないのだが。ただ、エイプリルフールにおいて嘘が全て許されると思ったら大間違いであろう。

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1244s/>

4月馬鹿ジェントルメン

2011年4月1日21時10分発行